

対話の場当日に発生した機材トラブルのためライブ中継できなかった部分も合わせて掲載しています。

ご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫びいたします。

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、北海道庁職員については北海道庁と、NUMO職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと記載しています。
- ・ 北海道庁、NUMO の職員、ファシリテーターの方の氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

寿都町 対話の場（第3回）会議録

1. 日時：2021年7月27日（火）午後6時35分から午後8時29分
2. 場所：寿都町総合文化センター ウイズコム
3. 会議録

（1）開会・挨拶

○NUMO

定刻も過ぎておりますので始めさせていただきます。本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。ただ今より第3回対話の場を開催いたします。

本日の出席者は会員の皆さん11名でございます。対話の場は会員の皆さん18名でスタートしたわけですが、2名の方から前回、皆さんにお決めいただきました寿都町対話の場会則の第4条第3項によって辞任の意思が2名の方から示されている状況でございます。また5名の皆様におきましては、お仕事のご都合などにより出席を控えたい、もしくは遅れて出席するかもしれないというご連絡いただいております。計7名の皆様におきましては、適宜関係資料や対話の場の開催内容を事務局側としてご報告するなど、引き続き門戸を広げまして再度出席いただけますことをお待ちしたいと思っております。

続きまして、経済産業省よりご臨席いただいている方々をご紹介します。資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物対策課長 下堀 友数様、経済産業省北海道経済産業局長 池山 成

俊様、また本日、北海道庁よりオブザーバーとして参加したいとの話がございました。やはり、こちらのほうも会則第5条第3項によりオブザーバーとしての出席を会員の皆様、北海道庁の方がいらしておりますが、お認めいただけますでしょうか？ よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、北海道後志総合振興局 産業振興部地域産業担当部長 兼 建設行政官参事 長島 正己様 よろしくお願いいいたします。

○北海道庁

今ご紹介に預かりました北海道後志総合振興局の長島と申します。この度はオブザーバーとしてこの場に参加をさせていただきまして、どうもありがとうございます。今日はどうぞよろしくお願いい申し上げます。

○NUMO

よろしくお願いいいたします。それでは、ここからの進行は前回に引き続き竹田先生にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいいたします。

(2) 前回のふりかえり

○ファシリテーター

皆さん、こんにちは、竹田でございます。第1回、第2回目に引き続きましてファシリテーターとして司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。それでは議事のほうを進行させていただきますがよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。それでは、前回の振り返りというところから簡単に申し上げたいと思っております。前回、第2回の対話の場の記録ということで、これそのまま前回作ったものを貼りだしてございます。前のほう（スクリーン）に写ってございますけれども、一応事務局のほうでどういう意見を頂いたかというのを全てまとめさせていただいています。あと、皆様のお手元にも同じようなA3横の資料がございますので、これ全く同じものでございます。このようにまとめた資料に基づいて、事務局さんのほうで、これから何ができるのか、それから今何ができるのか、ということ已全部まとめていただいたんですね。それで、今日の議事内容も含めていくつかご提案があるということですので、まずそこら行こうと思っております。事務局のほういかがですか？ それでよろしいですか。はい。それではご説明のほうをよろしくお願いいいたします。ちょっと私、後ろで座らせていただきます。

○NUMO

みなさま、こんばんは。事務局よりご説明申し上げます。NUMO寿都交流センターの末木でございます。いつも大変お世話になっております。今、竹田先生からご紹介ありました通り、み

なさまから見て右手、あちらですね、あちらの模造紙ですけれども、前回6月25日 第2回対話の場におきまして、みなさまからいただいたご意見を、付箋に書いていただきましたもの、これを貼りだしながら取りまとめた模造紙になっております。同じくご紹介いただきました通り、今お手元にある、こちらの対話の場通信ですね、こちらの裏面に、同じくあちらの模造紙の付箋に書かれたご意見を整理しているものでございます。こちらを見ながらお話しさせていただきたいと思います。この資料の左の上に「ご意見の分類」というものが書いてございます。このご意見の分類の中で上から2つ目「説明してほしいこと」という整理をされている項目がございしますが、このご意見が前回最も多く頂いたものになってございました。主なものをざっと読み上げさせていただきます。「文言調査の進捗状況について説明を詳しくお願いしたい」「文献調査がどのように進んでいくのか」「文献調査・概要調査は全国で最大何箇所まで応募を受付するつもりなのか、そのうち精密調査は何箇所行うつもりか」「精密調査に進むためには地元同意以外にどのような条件をクリアする必要があるのか」。それから、「地層処分事業についてですが、いまひとつ理解できないので、これからの勉強の場でやさしく説明いただきたい」「地層処分の安全性について具体的に分かりやすく説明してほしい」「地層処分の内容がまだよく判からない」「地層処分は本当に安全なのか」、これは安全の話ですね。「低レベル放射性廃棄物についての説明がない」、と、このようなかたちで地層処分事業に対する情報提供であるとか、説明を求めるご意見が多数でございました。ご意見多数でありましたことと、またこれらについてのご説明につきましては、NUMOにおきましても、すぐにでも実現可能ということでございましたので、まずはこの地層処分事業の詳しいご説明させていただけないかということで、本日は準備をしております。お手元に資料もお配りしておりますが、みなさまからご了解いただければ、このご提案の中身をご説明させていただきたいと思っておりますが、竹田先生、これは事務局からご提案ということで確認させていただいてよろしいですか？

○ファシリテーター

確認いただきたいんですが、まず全部説明を終了してから私のほうからお尋ねしようかと思っております。よろしくお願いいたします。

○NUMO

はい、ありがとうございます。では、まずこの整理をしておりますので、まず地層処分についてのご説明、こちらをまずは事務局よりご提案させていただきたいと思っております。後ほど、みなさまのご意向を確認させていただきたいと思っております。

続きまして、一番上のところの「進め方で工夫してほしいこと」、それから下から2つ目になりますが「活動の提案」、この整理をした中で、やはり同じように目立ったものがございました。こちらもざっと読み上げますが、「若い世代の人も対話の場に参加できるようにしたほうがよいのではないか」「対話の場の補充メンバーを団体の代表とかではなく一般市民の希望者から選出してほしい」「中高生の意見を聞いてみたい」「対話の場以外にも若い世代の人たちが議論する場があっていいのではないか」「事業について町の人に広く知ってもらう場があったほうがよいのでは」「今回の文献調査により市民の多くが寿都の未来を考えるようになった。話し合いの場をたくさ

ん作ってください」「町民にも不安に思うところがあり、少しでも安心出来る機会や情報を発信を」、と、こういったかたちでのご意見をいただいております。これらのご意見を踏まえまして、事務局としまして、まず勉強会を發起してみようということで、「町の将来に向けた勉強会メンバーを募集します」というタイトルで、高校生以上の町民のみなさまを、これは広く年齢上限も人数制限もなく募集をいたしました。これは7月7日発行の寿都町広報誌と、それから7月15日の新聞朝刊に募集チラシを折り込みさせていただいております。7月21日の応募締め切りの時点現在ですけれども、16名のご応募をいただいております。近日中に初回会合を開けるよう調整を進めて参るつもりでございます。なお、応募は、締め切りはしておりますけれども、今後も入りたいということをご希望があった場合には、随時ご参加いただけるように考えてございます。しかしながら、この勉強会是对話の場事務局で發起はいたしました、ご参加いただく方々が主体となって活動いただく、一から作り上げていく独自の取り組みでありますので、今後どのようなテーマとなるかなども、今のところ未定でございます。まさに初回の会合次第ということになります。対話の場事務局である町、NUMOといたしましても、発起人としてこの勉強会の下支えをしまっている所存であり、また活動の状況により対話の場との情報などの連携も図っていただけると考えてございます。また、この「活動の提案」の最後の行のところでございますが、テレビ寿都さんでも流せます、というご意見をいただいておりますが、こちらはすでにテレビ寿都さんにて、番組に組み込み放送いただいております。こちらはご報告となります。

続きまして、幌延・六ヶ所村などでの視察についてのご要望も複数ご意見を頂いております。視察につきましては、宿泊が伴うこともございますので、会員のみなさまのお仕事の都合やスケジュールを伺いながら、今後具体的な日程等のご提案をさせていただきたいと考えております。こちらはまた改めてご相談申し上げたいと思っております。

最後に、「心配していること・その他」に整理いたしましたご意見ですが、これらにつきましては町、NUMOにて連携を図りながら、例えば、町内での説明会や勉強会をやっていく、情報発信のチラシなどを配布する、ホームページにいろいろな情報を掲載する、テレビ寿都さんなどを含めてメディアでいろいろと放映していく、私ども交流センターでイベントや交流活動を行っていく、こういったことなどを行っていきたくと考えております。

みなさまに地層処分事業を知っていただくための必要なご説明や情報のご提供、これらをはじめとしまして、さまざまな取り組みをタイムリーに、かつ継続して実施して参りたいと考えてございます。また、これら以外のご意見ご質問、これからおそらく寄せられるご意見ご質問つきましても、対話の場でご議論いただいた結果を踏まえまして、適宜、事務局より対応策などご提案させていただきながら進めて参りたいと考えてございます。事務局からは以上でございます。

○ファシリテーター

末木所長、ご説明ありがとうございました。事務局から前回のご意見を踏まえて本日の議題を「地層処分に関する説明」とさせていただくこと。それから、「勉強会の具体化への準備」、「施設の視察の検討状況」等のご報告をいただいたところでございます。これから議論に入りたいと思っておりますので、事務局さんのほうご対応お願いいたします。

○NUMO

いま竹田先生からご案内がありました通り議論に入ります。いわゆる対話の場の会則第7条「活動の公開」というのがあるんですけども、会員の皆様が自由闊達な意見交換を行える環境を用意するため、マスコミのみなさまはこのタイミングで退席をお願いしたいというふうに思っておりますが、会員のみなさまそれでよろしいでしょうか？

それではマスコミのみなさま、退席をお願いいたします。

<前回のふりかえりを踏まえた NUMO からの説明と意見交換は非公開>

(3) 対話の場終了後のファシリテーターからの説明

※本会議録には、NUMO 及びファシリテーターからの会合全体の結果部分のみを掲載しています。

○NUMO

(8時) 35分になりましたので、ぶら下がりスタートしますが、ライブ配信は大丈夫でしょうか？ OKですか。それではスタートします。NUMOの広報部の中山です。最初はNUMOからどんな説明をしたかというのを5分程度で簡単にご報告します。その後、ファシリテーターからどんな意見が出たかということで総括を、振り返りをしてもらいます。最後に寿都町・国・NUMO 3人で、今日1日どのようなご説明で、どういった受け止めかというのをぶら下がりをするということで、3部構成になりますけどよろしくをお願いいたします。

最初は文献調査についてご説明しましたので、兵藤からご説明します。質問は全部終わった後、個別にお受けしたいと思っておりますので、スムーズな進行でいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○NUMO

NUMO 技術部の兵藤と申します。よろしくお願いいたします。今日は、後半のほうで「文献調査の進捗状況について」という資料を用いまして説明をさせていただきました。大きく2つに分かれて(い)まして、最初のほうは、文献調査とはどういうものかと。それから、文献調査はどのような流れでやっていくか、現在がその流れの中でどのへんにあるかというのを説明をさせていただきました。後半のほうは、集めた主な文献データというのは具体的にはどういうものかということで、地質ですとか断層に関するまとまったデータですとか、それから個々の論文については、こういった検索をしていますというような説明をさせていただきました。それから前半のほうで、具体的にどのへんまで来ているのかというのは、ご質問もあったのですが、これにつきましては11月に公表させていただきました文献調査計画書の中に、今日の資料の中にもあるんですけども、まずは文献データを集めて、それから情報を抽出・整理をします、と。その後に、文献調査で評価する要件に照らした評価というのをやります。最後に報告書に取りまとめます、ということですが、その中の収集し抽出・整理というのを今やっているところで、この収集、抽出・整理というのも、一気に全部収集して、次に情報・抽出してということではなくて、まずは

主だった文献データを収集して、必要な情報を抽出・整理して、不足したものがあればもう少し集める文献データの幅を広げてやっていくというようなことを説明させていただきまして、今は主だった文献データを集めて、主にそれらの情報整理が大体終わったようなところで、もう少し収集、抽出・整理をやっていくというようなことを説明させていただきました。そういったところが今日の説明内容でございます。

○NUMO

資料をすでにお渡ししていますので、もし細かいこんなことということがあったら、全体が終わった後、個別のぶら下がりというふうにお尋ねがあれば聞きたいと思っています。これを受けてどういうご意見があったのか、竹田さん、総括をお願いします。

○ファシリテーター

皆さん、こんにちは。北海道大学の竹田でございます。今回はファシリテーションということで、司会進行を務めさせていただきました。やり方なんですけれども、こういう付箋に質問を書いていただいて、この模造紙のほうに貼りだしていくという形を取らせていただきました。回答のほうは、それぞれ NUMO さんがされてますので、どういう質問が出たかというところだけ私のほうからご説明させていただきたいと思います。

まず、「前回より」というところがあるんですけども、これ前回も出たというところでちょっと残っているかなという質問でございます。「地層処分の内容や安全性について詳しくほしい」というようなところ。それから、ガラス固化体の本数ですね、「26,000 本と言われてるけど世界はどのくらいなんですか」、「六ヶ所村での保管期間 30 年から 50 年なんだけれども、その後の候補地や計画はどうなってるのか」というようなご質問がありました。これは高レベル放射性廃棄物についてということで分類をさせていただいております。それから再処理・再利用についてなんですけれども、模造紙の下（のほう）で申し訳ないのですが、六ヶ所村での安全性、それからプルトニウムを利用する際の“もんじゅ”ですね、その廃炉についての問題。それから「実際に再利用されているのか」というようなご質問、それとか「高速増殖炉については海外で研究をやめたんだけれども」というようなご指摘、それから「六ヶ所村の施設も稼働延期が繰り返行われていてコストもかかるんだけれども」というようなご意見というところが出ております。あと地層処分について、これは前回も出てるんですけども、「幌延の実験施設が当初の計画を途中で変更せざるを得なかったこと（など）ないか」というようなところ。それから模造紙の下のほうなんですけれども、TRU という低レベル放射性廃棄物について「ドラム缶に入れて埋めるイメージだったんですが」というようなところ。これはしっかり資料のほうで説明されていると思います。あと「ヨウ素 129 の問題」、「低レベル高レベル共に同じ処分場を利用するんですか」というようなところ、それから、ここは前回も出ている課題なんですけれども「文献調査の進み具合」ですね。それから「文献調査は全国で何件ぐらい受け付けるのか」というようなところのご質問が出たりしています。あとは、文献調査の具体的な説明がありましたので、「断層の長さについて」のご質問、それから「文献調査が 2 年間で済むのか、いつ頃までやるんですか」というようなところですよ。

というような質問があったということで、それぞれご回答がなされたというような状況でございます。以上で報告を終わらせていただきます。